



コミュニケーション機器の使用の体験ができます

筋萎縮性側索硬化症（ALS）等の神経難病をはじめとする難病は、病気の進行に伴い、意思疎通が困難になることが多くあります。そこで、コミュニケーション機能が残っている早い段階から、コミュニケーション手段を確保することが重要となります。

福井県では、福井県理学療法士会に委託して、在宅難病患者コミュニケーション機器体験事業を行い、難病患者さんの療養生活を支援しています。

コミュニケーション機器の体験事業

難病患者さんに、コミュニケーション機器を一定期間貸し出し、指導者が数回訪問して指導します。

借りるには？



貸し出し期間

2～3週間程度（延長等に関しては要相談）

コミュニケーション機器の展示・相談対応

難病支援センターに、コミュニケーション機器を展示しています。操作指導等も行います。



「レッツ・チャット」

簡単な操作で会話が楽しめる携帯用会話補助装置です。手軽に持ち運びができることと、複雑な操作が必要ないことが特徴です。



「ボイスキャリーペチャラ」

文字盤の文字キーを押すことで文章を入力・作成し、入力した文章は発声キーを押すことで読み上げる携帯用会話補助装置です。音声録音再生機能を搭載しています。



「トーキングエイド」

主に会話や筆談が困難な重度の障害者が意思を伝えるための携帯型意思伝達装置です。よく使うメッセージを登録して再生したり、盤上に入力したメッセージを表示することもできます。



「トーキングエイドライト」

会話や筆談が困難な方のための会話補助装置です。従来のトーキングエイドに比べ、大きさが約3分の2、重さが200グラムに軽減、持ち運びに便利です。



「伝の心」

ノート型パソコン。スイッチ操作で簡単な会話から手紙・日記・電子メールなどの文書機能はもちろん、テレビ・ビデオ等のリモコン操作ができます。

(写真…伝の心とビッグスイッチ)